

神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回のお題は「詰」以外の目的を達成するルールの特集です。偶然にも「白」で

始まる命名の作品が最初と

最後に飾る形になりました。

① 打歩ばかり詰 29手

神無三郎

「白雪姫Ⅱ」

	9	8	7	6	5	4	3	2	1
					金				
			龍			香			
			銀	銀	王	王	王	金	
			歩						
			銀	歩					
			角						
				桂	桂				

持駒 なし

66歩、67銀、同角、同桂生、

45銀、同飛、53龍、54角、同龍、55飛、65龍、同飛、29角、38飛、同角、47香、53飛、54歩、同飛成、55金、65龍、同金、53飛、54桂、55金、同金、46金、同桂、57歩迄29手。

【打歩】打歩詰以外の詰みを禁じる。

西村恒雄―7人の小人と悪い

王妃は35角でしようか。

☆本作は「雪姫」の姉妹作。

共に不動玉七種合という極めてハードな条件作です。

☆初手66歩はこの一手ですが、すぐに67歩合は同角、同桂生、57歩、同角で詰まない上に逆王手が掛かってしまいます。ただ、この手を読むことで35角の利きの遮断が必要だと分かります。でもその方法は？

海賊王―54桂を発生させ46に動かすというのは予想できないが、そこまでの道のりが悩ましくかつ面白い。

☆8手目すぐ54桂合としてもこれを動かさせません。合駒を動かすには二重に利きを遮断する必要があります。

そこで8手目54角から16手も掛けて54桂・55金の形を作ります。これで二重に利きが止まるので46桂が実現します。

駒井信久―5月号「雪姫」と同じように非打歩詰禁避用と思ひ込んで回り道をしてしまった。完全限定の手順に見応えあり。

☆「雪姫」は双玉の「打歩」に特有の法則問題型の詰上りを利用して、最手数で七種合を出す狙いでしたが、

本作は相手の角と自分の飛双方の利きの遮断が狙いの作品で、条件だけでなく手順も充実しています。

作者―55飛の配置がみつけれたのがよかった。金3枚、桂3枚の配置で、うまく香合が限定できた。

☆香合は無理に入れた感がありますが、他の合駒は謎解きの中で自然に現れるので、条件作であることを忘れてしまいそうですね。

② 最善自殺スタイルメイト 28手 神無七郎

	6	5	4	3	2	1
					王	
			龍			角

持駒 桂香

一二三四五六七八九

31角成、11玉、21馬、同玉、13桂、11玉、31龍、21桂、12香、同玉、21龍、13玉、25桂、14玉、13桂成、15玉、14成桂、16玉、15成桂、17玉、16成桂、18玉、17成桂、19玉、18成桂、同玉、28龍、同玉迄28手。

【自殺ステイルメイト】攻方を、王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【最善】攻方はなるべく早く目的を達成するよう王手を掛け、受方はなるべくそれを妨げるよう応じる。

☆普通詰将棋なら1手詰の形ですがルールは自殺ステイルメイト。相手を詰めてはいけません。しかも受方は協力してくれないので、駒を減らすのも容易ではありません。例えば香を遠打す

ると合駒で駒を増やされてしまします。

福原徹彦「合駒の出る手はなるべく指したくないなあ」と考えながら解いていました。思い切つて7手目31龍を指してみるとスラスラ解けて気持ち良かったです。市村道生「13角は巧い配置。8手目が本局焦眉の一着で、桂合が凄い抵抗です。」

☆邪魔な13角を消し、13桂に打ち換える手は分かりやすいですが、取って合駒を避けない7手目31龍が英断。

これに対し頭に利く合駒は13手目にそれを玉頭に打つて簡単。角合は作意と同様に進め、17手目25龍、同玉35馬以下馬を押し売りして早詰です。つまり21角合は変別解で、2名の誤解が出

ました。

弘光弘一成桂で追いかけていく手順が楽しい。

山本強志「持駒に香がなければ悩む所は何もない。香1枚でこの手順が現れるという面白さ。」

☆桂を成桂にして押し売りする手順には前例（のすたる爺作、自殺詰34手、'82年7月）があり、新鮮味不足は否めません。合駒で桂が出ることで初形の簡潔さが、ささやかな取り柄です。

☆なお「最善」の条件は最終手の余詰を防ぐためのものです。最終手余詰を不問とする普通詰将棋の慣習を適用する方法もありますが、曖昧なルールの流用はフェアリーでは避けるべきと判断しました。

③背面はか自殺ステイルメイト

ト 12手 上谷直希

	6	5	4	3	2	1
				王		
		王				

持駒 金

45金、46飛、44金、65玉、45金、55角、同金、同玉、22角、23金、11角生、22銀迄12手。

【背面】敵駒と背中合わせになつたとき、互いに利きが入れ替わる。

須川卓二「双裸玉とは思えない序盤です。素晴らしい！☆究極の簡素形に背面の手腕が満載。手順は小駒の王手に大駒で受ける前半8手と大駒の王手に小駒で受ける

収束4手の二つの部分に分かれています。

作者(抜粋)―序盤ののんびりしててなおかつ玉同士が離れる展開は、面白いかどうかは別として不利益はあるかも。

☆前半8手は背面ルールを活かして角を取るのが主目的。これには55金、56角、64金、55玉、65金、66角、56金：のような手段もあるので、角より飛が盤上に残る作意の方が有利です。この難所の後には更に高密度の手順が待っています。

市村道生―上品で高級な手順。詰後に心地良い余韻が残る。西村恒雄―解いた後、最終手が一番難しかったような気がした。

若林―収束4手の味がいい。

23金の限定のしくみが面白い。

☆11手目11角生は減多にお目にかかれぬ珍しい手。直接11角と打つと23金の拠点を作れません。一仕事してから角を不成で隅に押し込み、銀で蓋をして見事に封印完了です。

作者(続き)―動けるけど「動いた先で」自玉への王手を誘発してしまう場合は意外と珍しい気がしませぬ。

☆最後、玉も角も動けそうに見えますが、21玉は銀が玉に変身して王手、22角は23金が角に変身して王手になるのでどちらも動けません。ステイルメイト作品を創る時「動けそうで動けない」形を素材にすると面白い作品になりますね。

④安南はか自殺ステイルメイト 16手 神無太郎

									王

持駒 飛歩
 53飛、21玉、32歩成、同玉、73飛生、41玉、52歩成、同玉、93飛生、61玉、72歩成、同玉、92飛生、81玉、91歩、92玉 迄16手。

【安南】味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

海賊王―2段目の歩を飛の動きにして、それを成捨てるという発想がなかなか思い

浮かばなかった。森美憲―手順が趣向的で面白い。16手に短縮するのが難しかった。

☆安南の特性を活かした軽趣向作。左辺の5枚が玉から離れているので、歩を飛に変身させて効率よく消すわけです。作意とは逆に玉を左辺に飛ばす手段(53飛、21玉、32歩成、11玉、51飛成、21飛、22と、同玉、31龍、72玉…)も有力ですが手数不足。1段目と金は非限定、ただでなく、この余詰も防いでいます。

山下誠―攻方の駒を全部消そうとすると、1段目の歩打に思い至らない。

山本強志―煙詰の収束のような美しい手順で駒が消えていく。終局図、取り残され

たような91歩が次作のヒントになっっている訳ですね。

☆安南の性能変化を利用して本来行き所のない駒となる駒で王手し、後に性能変化の元になる駒を消せば、盤上に残った駒は利きを持たず、効率的にスタイルメイクトを実現できます。そしてこの原理を大々的に使ったのが次の作品です。

⑤安南ばか自殺スタイルメイ
ト 32手 神無太郎

「白虹」

9	8	7	6	5	4	3	2	1
蟹		と		と		王		飛
					歩			
と								
						桂		歩
歩		桂				桂		

一二三四五六七八九

持駒 香4歩3

- 32歩、42玉、31歩生、51玉、52歩、62玉、51歩生、71玉、72歩、81玉、92と、同玉、71歩生、29玉、19飛生、28玉、29香、39玉、21香生、48玉、49香、59玉、41香生、68玉、69香、79玉、61香生、88玉、89香、99玉、81香生、19馬迄32手。

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	歩	香	歩	香	歩	香		
王								蟹

一二三四五六七八九

山下誠―最終形の壮大さに圧倒される。通常ルールなら禁じ手のオンパレード。山本強志―歩と香が1段目に

並んで見事な白虹が完成。

☆「白虹」は白一色に見える珍しい虹のこと。1段目に並ぶ香歩が、まるで北極の白虹のように、非日常的の世界を盤上に作り出します。駒井信久―32手で17枚消化するのは不可能そうに思えたが、一歩目の不成で少し余裕ができると分かって解けた。不規則な初形からは予想外の美しい終形が出現。

☆初形で攻駒は17枚。単純に駒を捨てても2手不足です。おまけに駒が盤全体に散在しているの、簡単に駒を消せそうにありません。でも前問の手筋を応用すれば大丈夫。前問では性能変化でしたが、今回は開き王手を利用して歩と香を不成で1段目へ送り込みます。

福原徹彦―意外に悩みました

が解けるときは突然でした。91馬が92↓29玉のためだけでなく、最終手でも仕事をするのが良いですね。

☆駒が大きく動く豪快な手順そして幻想的な終局図。解いて気持ち良い作品だったと思います。

〔各題の正・誤・無解者数〕

- ①917②928③8011
④1207⑤9010

〔解答成績〕(太子5名当選)

〔全題正解〕市村道生、若林、駒井信久、西村恒雄

〔4題〕海賊王、福原徹彦

〔3題〕須川卓二、占魚亭、弘光弘、山本強志

〔2題〕神谷薫、原正彦、山下誠

〔1題〕森美憲

〔無解又はコメントのみ〕

市原誠、鈴木疆、塚崎彰仁、西野かな、藤井大